



市民活動や地域活動に取り組む皆さんを紹介します。

まらっと! introduction



セーリングを通じた交流の輪
セーラビリティ津



月2回の体験試乗会には年間約100人が参加していると話す事務局長の辻ヶ堂さん

セーラビリティ津が活動を始めたのは平成18年。年齢や障がいの有無・程度を問わず、みんなでセーリングを安心して楽しむことを目的として結成されました。セーラビリティの活動はオーストラリアなどを中心に世界中に広がっていて、主にアクセスディンギーという安全性が高く、操作も簡単な小型ヨットを使用します。

毎年、春から秋にかけてセーリングを行っています。アクセスディンギーがどんなに安全に作られていたとしても、

天候が悪かったり、乗る人が無理をすれば、事故につながってしまう可能性があります。そのため、日々の活動の中では、他のヨット競技より中止する天候基準を厳しく設定し、風に流された時の救助体制を万全にするなど、誰もが安心してセーリングができるような環境づくりに重点をおいて取り組んでいると、事務局長の辻ヶ堂さんは話してくれました。

月に2回ほど行うセーラビリティの活動には小学生から高齢者・障がいのある人などさまざまな人が集まります。セーラビリティに参加することで、外出の機会が増え、日頃出会えない世代の違う仲間と知り合う場を得ることができます。そして、セーリングをもっとうまくなりたいという気持ちが生まれ、練習を重ねて上達していくうちに、自分自身の意欲や自信につながるといいます。

代表の坂本京子さんは、さらにたくさんの人と交流できる場として、セーラビリティの全国大会を近いうちに津市で開催したいと意気込んでいます。「セーラビリティは、世代やハンディキャップがあるかどうかにかかわらずさまざまな人が同じフィールドで競技をする



全日本大会を津市で開催するために、課題を一つ一つクリアしていきたいと語る代表の坂本さん

数少ないスポーツのひとつです。私たちは誰もが安全に競技できるよう支援するだけでなく、一緒に楽しむことが一番だと思っています。これからはさらに多くの人にこの活動を知ってもらい、活動の輪を広げていきたいです」と二人は力強く話してくれました。

これからも、セーラビリティ津の活動は、ここ伊勢湾から太平洋へと大きく広がっていくことでしょう。

セーラビリティ津についての問い合わせは、事務局長の辻ヶ堂さん(☎256-4727)へ



セーラビリティとは、sailingとabilityを合わせた言葉で、障害・年齢・能力に関係なく、誰もが自由にセーリングを楽しむ活動のことです